

杜の都環境プラン中間評価に向けた 調査結果について (市民意識調査・生きものの認識度調査)

1 定量目標と今回ご報告する調査結果の関係

施策分野	定量目標	調査名称等
脱炭素都市づくり	①温室効果ガス排出量	
自然共生都市づくり	②みどりの総量	
	③猛禽類の生息環境	
	④身近な生きものの認識度	生きものの認識度調査 (5年に1度)
資源循環都市づくり	⑤ごみ総量	
	⑥ごみの最終処分量	
	⑦1人1日当たりの家庭ごみ排出量	
	⑧家庭ごみに占める資源物の割合	
快適環境都市づくり	⑨環境基準の達成状況	
	⑩環境に関する満足度	環境に関する市民意識 調査（約5年に1度）
行動する人づくり	⑪日常生活における環境配慮行動	

今回ご報告

2 生きものの認識度調査

(1) 調査の概要

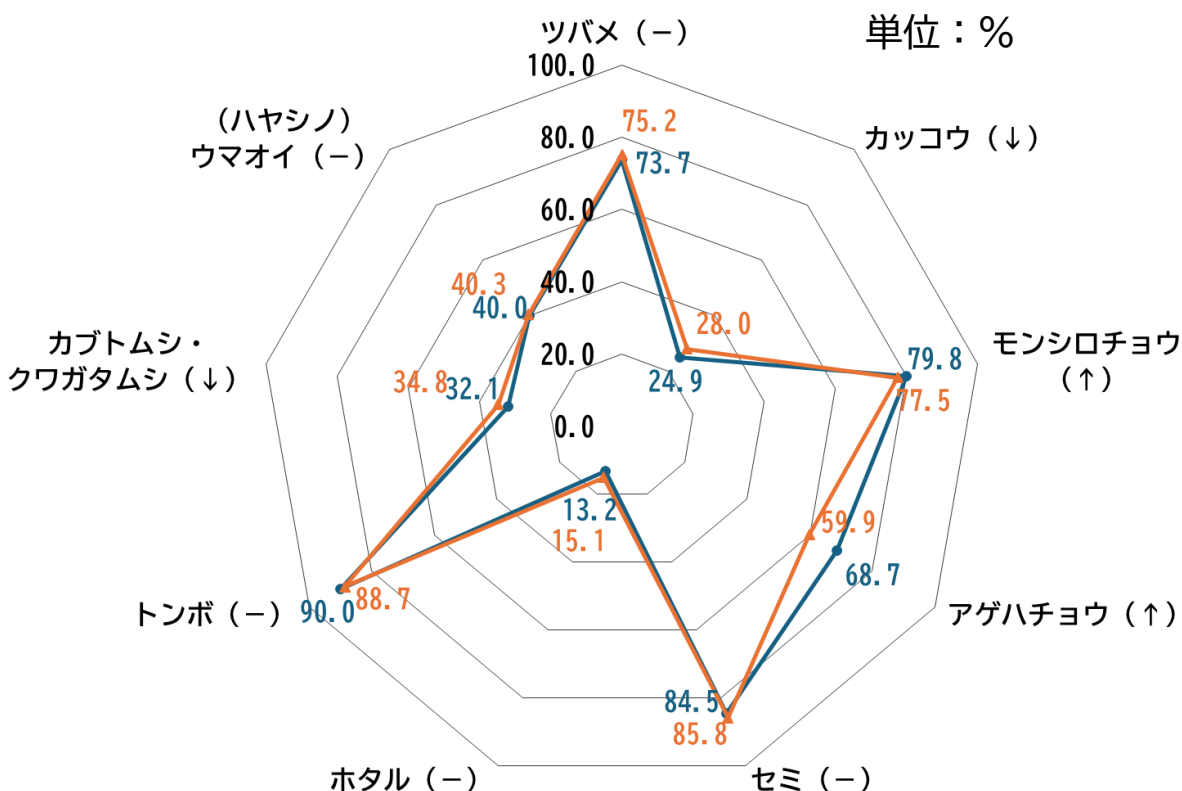
調査対象	①仙台市立中学校（65校）及び 仙台青陵中等教育学校の 1年1組の生徒（中学生） 1,933人 ②①の家族の方（中学生の家族） 同上
調査内容	・ 仙台市内に生息する13種類の身近な生きものの認識について ・ 自然環境に対する意識について
調査期間	令和6年5月13日（月）～令和6年5月24日（金）
調査方法	各学校を通じて、調査票を配布・回収
回答人数	①1,767人（91.4 %）、②1,587人（82.1 %）

2 生きものの認識度調査

(2) 調査の結果

定量目標④身近な生きものの認識度

身近な生きもの（9種）について、
全ての種における市民の認識度を現在よりも向上させます。



— 2019年度（現行計画の基準年）

— 2024年度（今回の調査結果）

凡例 2019年度と2024年度の差
(ー)：±2%未満
(↑)：+2%以上
(↓)：-2%以下

✓ 現行計画の基準年と
概ね同じ傾向

✓ カッコウ及び
カブトムシ・クワガタムシ
がやや低下

2 生きものの認識度調査

(3) 認識度の変化に関する推定要因

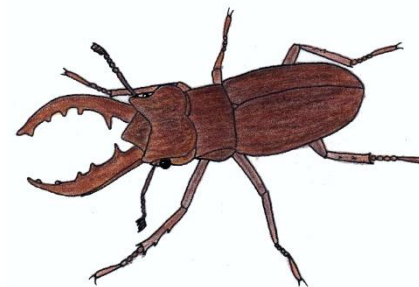
カッコウ (▲3.1%)

カッコウが托卵するヨシキリやモズの繁殖環境の草地・疎林等の減少や、気候変動による飛来時期や餌動物の発生時期のずれなどが生育状況に影響している可能性がある。



カブトムシ・クワガタムシ (▲2.7%)

日常生活の中で姿を見る機会が少ないため、能動的に自然に親しむ機会を創出する必要があるが、その機会が減少している可能性がある。



3 市民意識調査

(1) 調査の概要

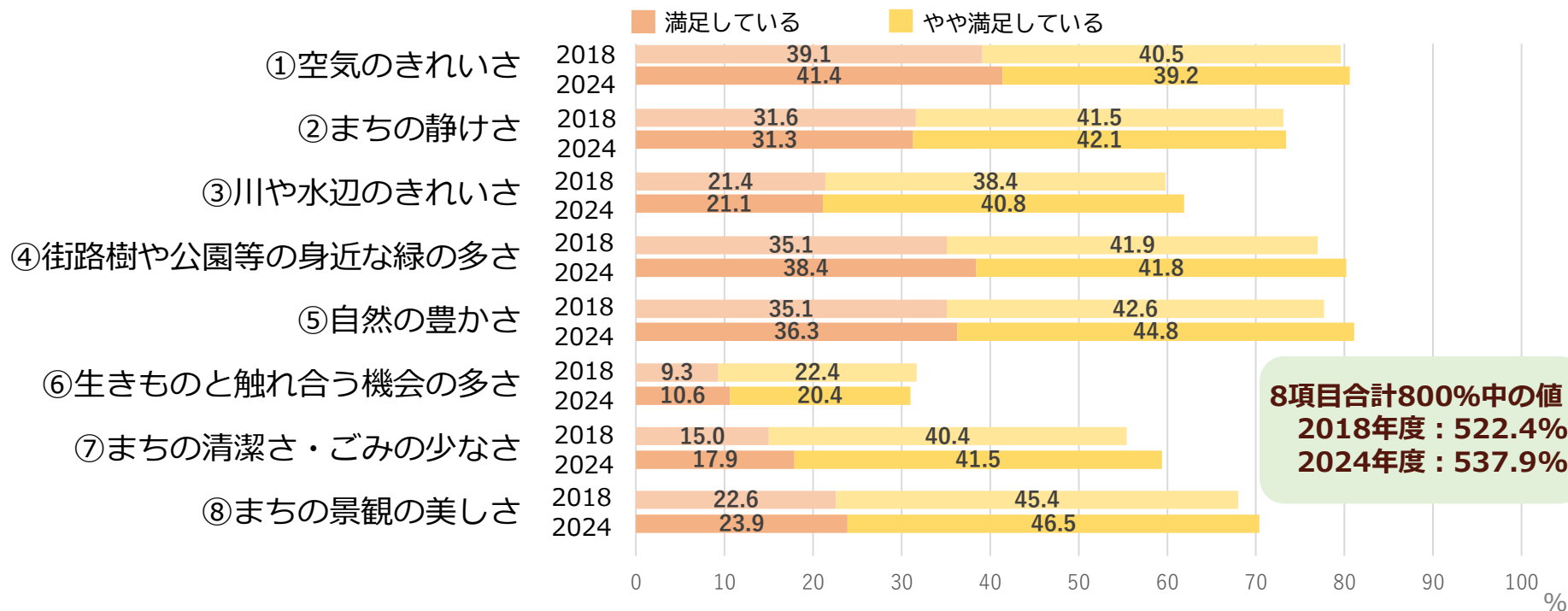
	①市民アンケート	②中学生アンケート
調査対象	満18歳以上の市民3,000人 (地域別に無作為抽出)	市内中学校25校の2年生739人 (各校1クラスを対象)
調査内容	仙台市の環境に関する満足度、日常生活における環境配慮行動についてなど、全7問	仙台市の環境に関する満足度、日常生活における環境配慮行動、環境学習に関する興味についてなど、全5問
調査期間	令和6年9月9日(月)～ 令和6年9月27日(金)	令和6年9月9日(月)～ 令和6年9月27日(金)
調査方法	郵送による調査票の配布・回収	学校を通じて直接配布・回収
回答人数	1,229人(回収率41.0%)	656人(回収率88.8%)

3 市民意識調査

(2) 調査の結果

定量目標⑩環境に関する満足度

市民の「環境に関する満足度」(8項目)について、全ての項目における満足度を現在よりも向上させます



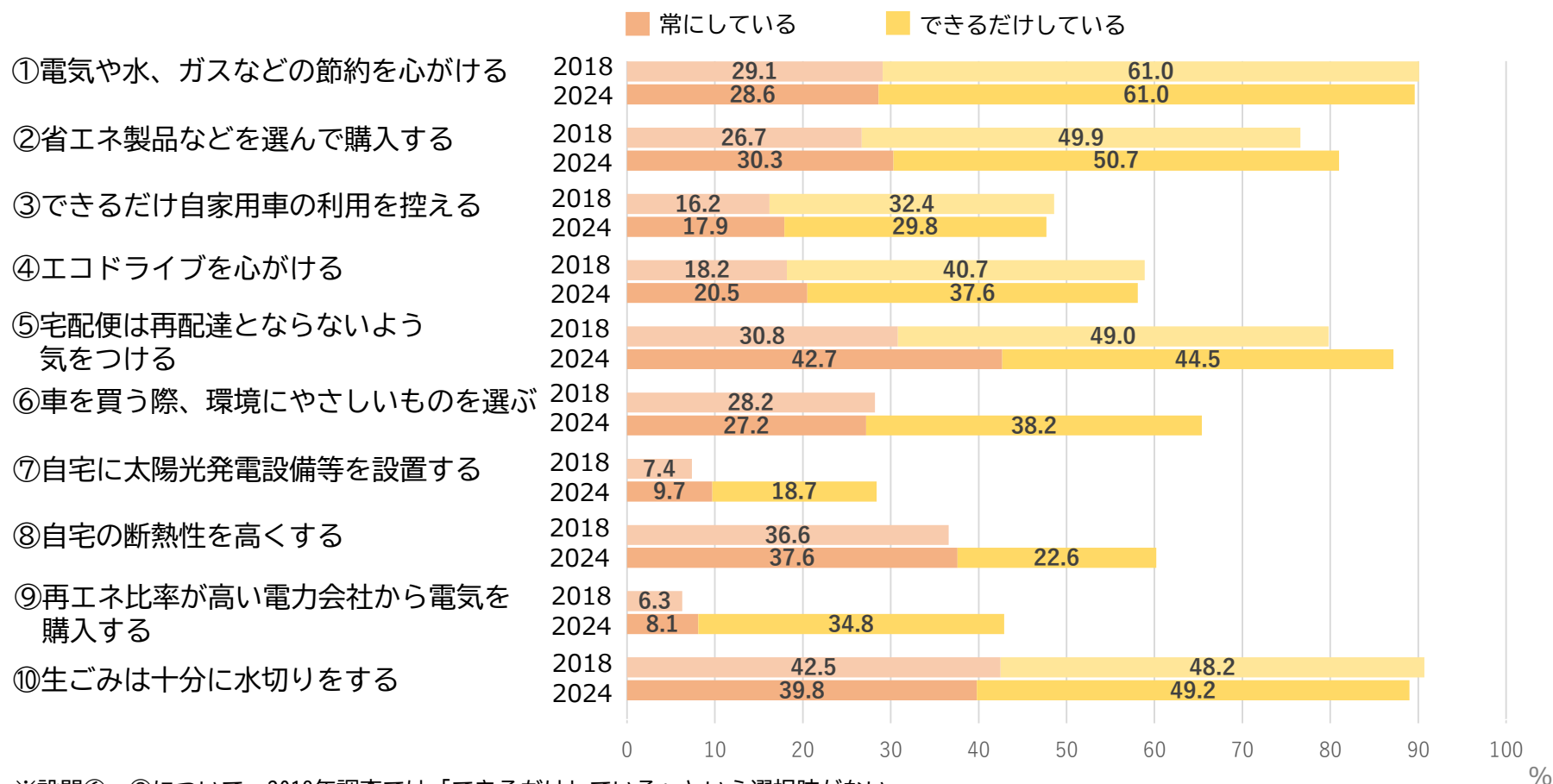
- ・「満足している」または「やや満足している」人の割合は、8項目合計で15.5ポイント増加
- ・8項目中7項目で前回より上回っており、市民の環境に対する満足度は概ね良好
- ・引き続き、各環境施策を推進し、良好な環境の保全に努めていくことが必要

3 市民意識調査

(2) 調査の結果

定量目標⑪日常生活における環境配慮行動

日常生活における市民の環境配慮行動（25項目）について、全ての項目における実践割合を現在よりも向上させます

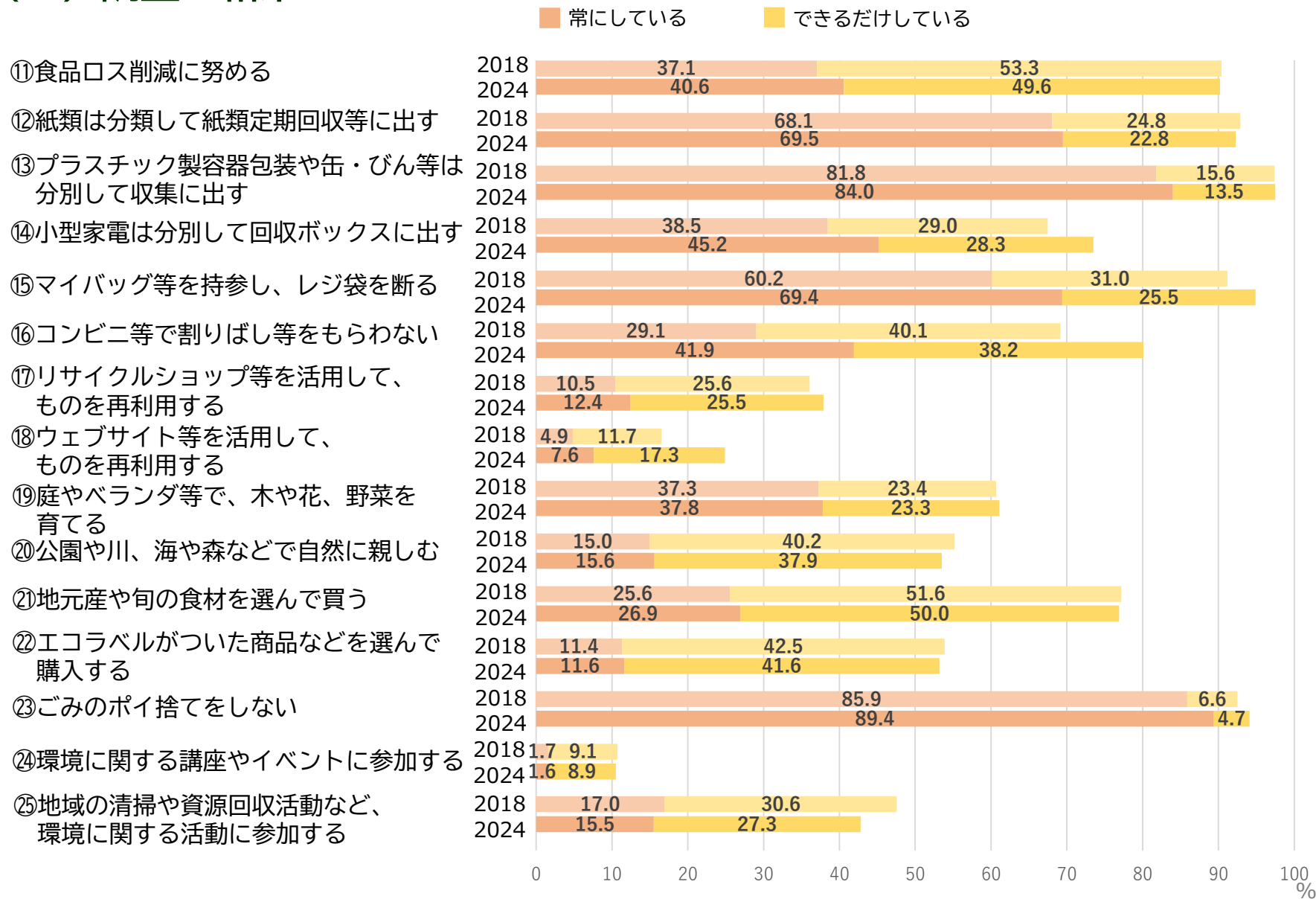


※設問⑥～⑨について、2018年調査では「できるだけ行っている」という選択肢がない

※設問⑥～⑨について、2024年調査では「常に行っている」を「既に行っている」に、「できるだけ行っている」を「今後したいと思う」に選択肢を変更

3 市民意識調査

(2) 調査の結果



3 市民意識調査

(2) 調査の結果

定量目標⑪日常生活における環境配慮行動

日常生活における市民の環境配慮行動（25項目）について、全ての項目における実践割合を現在よりも向上させます

- ・「常にしている」または「できるだけしている」人の割合は、25項目合計で36.4ポイント増加
- ・項目別では、下記の点が大きく増加。
 - ②省エネ製品などを選んで購入する（+4.5）
 - ⑤宅配便は、再配達とならないよう気をつける（+7.5）
 - ⑭小型家電は分別して回収BOXにだす（+6.0）
 - ⑯コンビニ等で割りばし等をもらわない（+10.9）
 - ⑱スマホのアプリやウェブサイトを活用して、ものを再利用する（+8.3）
- ・一方で、⑲地域の清掃など環境に関する活動に参加が大きく減少（▲4.8）
- ・より一層の環境配慮行動の実践に向けて、引き続き環境教育・学習の推進や、情報発信に努めていくことが必要

25項目合計2500%中の値
2018年度：1482.2%
2024年度：1518.6%

4 今後について

- ・ 本調査の結果をはじめ、他の定量目標の進捗状況を踏まえ、令和7年度に中間評価を実施する。（令和7年度第1回環境審議会にて中間評価（案）を報告予定）
- ・ 中間評価の結果を踏まえ、今後の事業内容に反映させていくとともに、必要に応じて、プランの見直しを行う。